

報道関係各位

2019年2月21日
株式会社ソリトンシステムズ

約 27 億件の巨大漏洩ファイル「Collection#1」における日本の被害を特定

日本人のパスワード付きメールアドレス 2000 万件から、新規に 800 万を発見

株式会社ソリトンシステムズ(代表取締役社長:鎌田信夫 以下ソリトン)は、2017年10月に発表した企業や官公庁、自治体、各種団体の『漏洩アカウント被害調査』サービスを提供するため実施していたサイバー空間の調査中に、新たに「Collection#1」(コレクション・ナンバーワン)と呼ばれる巨大な漏洩ファイル群を発見しました。この巨大ファイル群の存在については、2019年1月中旬から多くの報道があり、専門のアナリストや調査会社が分析結果を公開し始めています。

この「Collection#1」巨大ファイル群は、様々なファイル形式を持つ 12,400 を超えるファイルで構成され、主には漏洩したメールアドレスとパスワードのセットが格納されており、総レコード数の合計は 26 億 9000 万を超えています。

巨大ファイル群には、インターネット上で「日本」を意味する「jp」が末尾に記載されたメールアドレスやファイル名が数多く含まれているため、これを分析することで日本人や日本の組織の被害を特定しました。

特定対象	分析項目	被害状況
日本人の漏洩メールアドレスとパスワードのセット	総レコード数	2002 万レコード
	新規に発見した数	803 万件(名寄せ後)
漏洩被害にあったと思われる日本のサイト	総サイト数	42 サイト
	新規に発見した数	6 サイト

ソリトンでは、漏洩被害にあったと思われる国内サイトが発見された場合には、可能な限り速やかに通報と注意喚起の連絡を実施しています。

●約 80 億のパスワード漏洩情報を分析することが可能

ソリトンでは、世界中のサイバー犯罪に関して「オープン・ソース・インテリジェンス」(OSINT)手法を使った被害分析の体制を整備しています。調査サービスを開始した 2017 年 10 月時点では、世界の約 50 の漏洩事件を対象に、のべ 25 億の漏洩アカウント情報から日本企業や団体の被害状況を調査していました。2019 年 1 月末現在、国内の 210 以上の漏洩事件、国外の 180 以上の漏洩事件、国籍不明の 8 つの巨大漏洩ファイル群から、約 80 億の漏洩アカウント情報を分析することが可能となりました。

●「Collection#1」事件における我が国の被害状況をホワイトペーパーで公開

今回の巨大漏洩データを分析し、パスワード漏洩に関しては、我が国の組織属性別の被害や重要機関の被害状況、サイト漏洩に関しては、国内漏洩サイトの被害状況をまとめ、ホワイトペーパーで公開しています。

▼ホワイトペーパーダウンロード

<https://www.soliton.co.jp/special/collection1.html>

なお、この内容は 2019 年 2 月 21 日(木)付の日本経済新聞朝刊に掲載されております。

【株式会社ソリトンシステムズについて】

1979 年の設立以来、ソリトンシステムズは IT・エレクトロニクス業界にあって、常に新しい技術トレンドを見据え、いくつもの「日本で初めて」を実現してきました。近年は、認証を中心とした IT セキュリティからサイバー対策製品まで、また、携帯電話回線や Wi-Fi を利用した ハイビジョン・レベルの映像伝送システムなどに取り組んでおります。国産メーカーとして、オリジナルの「もの創り」、「独創」にこだわった製品とサービスを提供しております。

設立：1979 年、売上 152 億円(2018 年 12 月期・連結)、東証 1 部

<https://www.soliton.co.jp/>

【漏洩アカウント被害調査サービスに関する問合せ先】

株式会社ソリトンシステムズ IT セキュリティ事業部

Tel: 03-5360-3811 netsales@soliton.co.jp

【このリリースに関するマスコミからの問合せ先】

株式会社ソリトンシステムズ 長谷部 泰幸 Tel: 03-6369-8015